

修士論文（要旨）

2019年1月

中国内モンゴル自治区の一人暮らし高齢者の孤独感に関連する要因に
ついての研究

指導 白澤 政和 教授

老年学研究科

老年学専攻

216J6901

伊 権

Master' s Thesis(Abstract)

January 2019

Factors Related to Feelings of Loneliness among the Elderly Living alone
in Inner Mongolia of China

Yi Hua

216J6901

Master' s Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor:Masakazu Sirasawa

目次

第1章	1
はじめに	1
1. 研究背景	1
2. 先行研究	2
3. 孤独感に関連する要因	3
(1) 取り上げられてきた要因	3
(2) 性別	3
(3) 婚姻状況	3
(4) 身体健康	4
(5) 関係者との交流頻度	4
第2章	5
1. 調査の目的	5
2. 調査の方法	5
3. 倫理的配慮	6
4. 調査項目	6
(1) 従属変数	6
(2) 独立変数	6
(3) 基本属性	6
(4) 関係者との交流頻度	7
(5) 老研式活動能力指標	7
第3章	7
1. 分析方法	8
2. 分析結果	8
(1) 単純集計	8
(2) t 検定及び一元配置分散分析	14
(3) 相関係数	14
(4) 重回帰変数の分析	15
第4章 考察	15

参考文献

要旨

1979年に「一人っ子政策」が実施されて以来、中国で90年代に生まれた子供は、ほとんどが「一人っ子」であった。現在、「一人っ子」の世代は結婚し、子育ての年齢になっているが、多様な理由により親から離れて生活している場合が少なくない。

例えば、中国内モンゴル自治区での筆者の友人Aは、10年前に、両親が離婚し、独立生活した後に、結婚したが、父親は病気で病院に運ばれて、母親は一人暮らししている。また同じ中国内モンゴル自治区の別の友人Bは、幼少時に父親を亡くし、その後は母親と二人暮らしをしていた。母親は1年前に交通事故で寝たきり高齢者になって、他に介護をしてくれる人もおらず、年金と社会保険に加入してないので、雇用する経済力もない、子女の給料で、毎日母親を病院で介護していた。入院後、回復する可能性がないことと同時に病院の手術料が高いため、Bの母親は退院せざるを得なかった。母親は子女に迷惑をかけないように、自殺した。

1. 研究背景

「中国都市養老指数青書 2017」によると、中国は世界で人口が最も多い国というだけでなく、高齢者の数も最多な国であることが明らかになった。また青書では高齢化が各地域で深刻化しつつあり、中国は高齢化社会にすでに足を踏み入れているとしている。

高齢化がもたらす問題について、「中国都市養老指数青書 2017」では、「中国の年金支出額は毎年増え続けており、平均して毎年前年比 22.84%増となっている。年金の支出は歳入の増加を大いに上回り、支出の幅も収入の幅よりはるかに多い。これは国家財政にとって極めて厳しい現状である。医療保障制度から見て、高齢者が消費する医療衛生資源は普通の人々の3倍から5倍である」としている。

現在、中国の人口の高齢化は、高齢者数の急激な増加と規模の拡大、寝たきり老人の急激な増加などの問題をはらんでいる。そのため、社会の負担が重くなり、特に農村における高齢者の介護問題が深刻になっており、高齢者世帯の空き巣化や一人暮らし高齢者が急速に増えている。工業化、都市化、市場化といったプロセスが加速していく中で、家族が支える力が弱まり続け、高齢化が経済や社会に与える深刻な影響がますます顕著になりつつある。

2016年末までに、中国の60歳以上の高齢者数は約2億4000万人に達した。2050年までに中国の高齢者人口は4億8000万人に上り、世界の高齢者の4分の1を占めると見られている。

中国内モンゴル自治区の高齢化の現状

内モンゴルは少数民族居住区であり、漢族が一人っ子政策実施後、内モンゴルの出生率の低下も著しく、内モンゴルの人口の年齢構造に重大な変化が生じ、高齢者の人口の割合が大幅に上昇し、高齢化の速度は早く、65歳以上の高齢者人口割合は1982年の3.61%上昇し、2014年までの8.81%である。国連による人口高齢化の基準によれば、内モンゴルは2007年に高齢化が進んで、65歳以上の高齢者人口割合が7.12%である。

参考文献

- 1)内閣府 2015 平成 27 年版高齢社会白書(全体版).
- 2)高藤真弓 高齢期の孤独・孤立の要因分析とその解消にむけたソーシャルワークの接近方法. 日本福祉大学社会福祉論集.
- 3)齋藤静 2008 高齢期における生きがいと適応に関する研究—ネットワークの観点から—. 現代社会文化研究.
- 4)谷脇えみ・他 2002 家族と同居する在宅高齢者の孤独感. 高知医科大学
- 5)落合良行 1999 孤独な心—淋しい孤独感から明るい孤独感へ, サイエンス社, 4-6, 27
- 6) L. A. ペプロー・D. パールマン 1988 孤独感の心理学. 誠信書房, 加藤義明監訳
- 7)諸井克英 1995 孤独感に関する社会心理学的研究—原因帰属および対処方略との関係を中心として 風間書房, 9-20.
- 8)日本健康心理学会 1997 健康心理学辞典, 実務教育出版.
- 9)長田久雄・他 1989 高齢者の孤独感とその関連要因に関する心理学的研究, 老年社会科学, 202-217.
- 10)長田久雄・他 1989 高齢者の孤独感とその関連要因に関する心理学的研究, 老年社会科学, 202-217.
- 11)工藤力・長田久雄・下村陽一 1984 高齢者の孤独に関する因子分析的研究老年社会科学, 167-185.
- 12)総務庁長官官房老人対策室 1987 老人の生活と意識, 中央法規出版.
- 13)藤原武弘・来嶋和美・神山貴弥・他 1987 独居老人の孤独感と社会的ネットワークについての調査的研究, 広島大学総合科学部情報行動科学教室.
- 14)東京都老人総合研究所社会学部 1978 一人暮らし老人の孤独感についての研究, 東京都老人研究所.
- 15)下関千春:「高齢単身者の孤独の要因と対処資源」研究開発室, 2005. 9.
- 16)長谷川万希子・岡村清子・安藤孝敏・他 1994 在宅老人における孤独感の関連要因, 老年社会科学, 16(1) , 46-51.
- 17)松井豊・堀洋道 2001 心理測定尺度集 III—心の健康をはかる〈適応・臨床〉, サイエンス社 8-10.
- 18)野口裕二 1991 高齢者の関係者との交流の頻度その概念と測定, 社会老年学, 37-48
- 19)藤原佳典・他 2003 自立高齢者における老研式活動能力指標得点の変動、生活機能の個別評価に向けた検討, 日本公衆衛生雑誌, 360-367.
- 20)野口裕二 1991 高齢者のソーシャルネットワークと関係者との交流の頻度友人・近隣・親戚関係の世帯類型別分析, 老年社会科学, 89-105.
- 21)桂敏樹, 星野明子, 渡部由美 1998 独居老人の孤独感を軽減する要因, 日農医誌, 47(1)
- 22)藤原武弘・来嶋和美 1988 老人ホームの老人の孤独感と社会的ネットワークについての調査的研究 広島大学総合科学部情報行動科学.
- 23)中华人民共和国国家统计局 2011 中国统计年鉴.

- 24) 陈立新·陈功·郑晓瑛 2009 北京城市丧偶老人抑郁症状及其影响因素分析. 人口与发展.
- 25) 毕璿 2010 城市老年人家庭照顾困境研究——基于 12 个家庭的老年人及其照顾者的经验. 济南大学.
- 26) 黄希庭 2004 大学生心理健康教育——第六章人际关系与心理健康. 254-255
- 27) 黎芝 2012 UCLA 孤独感量表中文简化版 (ULS-8) 的考评及应用研究.
- 28) 汪向东·王希林, 馬弘 心理卫生评定量表手册(增訂版), 中国心理衛生雜誌社. 253-256
- 29) 刘志荣·悦进发 2003 老年人孤独及其相关因素研究, 中国公共卫生. 19(3), 293-295
- 30) 张立龙 2015 居住安排对老年人孤独感的影响, 老龄心理, 第 3 卷第 2 期.
- 31) 王晓刚·陈卓 2007 孤独的概念辨析 保健医学研究与实践, 4(1), 81-84
- 32) 邓蓉 2016 非正式社会支持与中国老人的心理健康, 贵州社会科学.
- 33) 崔光辉·吴振强·张秀军·孙业桓 2009 安徽某地区老年人孤独及其影响因素的研究 现代预防医学, 36(11).
- 34) 许晓芳·侯振虎 2011 老年人孤独感的心理学研究进展, 社会工作, 46-49
- 35) 张秀军·孙良·于玉领 2010 家庭功能及社会支持对农村老年人孤独的影响, 中国临床心理学杂志, 18(1), 109-111.
- 36) 李东阳·张国云·朱红 1997 老年人孤独感调查, 健康心理学, 5(4), 256-258.
- 37) 王福兴·徐菲菲·李卉 2011 老年人主观幸福感和孤独感现状, 中国老年学杂志, 31(13)
- 38) 古谷野ほか: 地域老人の生活機能; 老研式活動能力指標による測定値の分布, 日本公衆衛生雜誌 1993; 40:468~78.
- 39) 中国内モンゴル自治区統計局
- 40) 浦光博 1992 支えあう人と人: ソーシャル・サポートの社会心理学, サイエンス社.